

平成 23 年度海外渡航旅費助成金成果報告

日本学士院 上田誠也

この度、上記助成金をいただいて、2011 年 6 月 28 日 7 月 7 日、オーストラリア・Melbourne で開催された第 25 回国際測地学・地球物理学連合総会(XXV IUGG General Assembly) に出席させて頂きました。時差はほとんどありませんが、極暑の東京と真冬の Melbourne の往復は老骨にとってはなかなかの challenge でした。Melbourne は活気に満ちた、多民族都市でした。

EARTH ON THE EDGE: SCIENCE FOR A SUSTAINABLE PLANET なる旗印を掲げた今回の IUGG 総会では、災害・環境問題にかかわる session が多数開かれました。その上、プログラム編成時には、想定されてはいなかった東北日本大震災・津波・原発事故の発生はまことに大きなインパクトを与えたようです。

私は IASPEI (地震学・地球内部物理学協会) 傘下の JS12 「短期地震予知にむけて 電磁気およびその他の先行現象とそれらの発生機構」シンポジウムに主に出席しました。短期地震予知は我々が我が国の地震予知計画が真摯にとりあげないことを常日頃批判してきたテーマですが、IUGG の下部組織「地震・火山に関する電磁気研究」グループが企画した今回の IUGG sessions では、コンビーナーも座長も、芳原、長尾、竹内、上田などが名を連ね、残りは 1, 2 のロシア人(しかも現実には不参加)でした。私はこのシンポジウムのなかの 1 session で、「Natural time analysis for seismicity in Japan」と題した発表をしました。題名は変える必要はありませんでしたが、内容は提出済のabstractとはまるで違う 3.11 大地震に関わる短期先行現象の予察的新事実でした。

論文発表も日本人、ロシア人が多く、この面での研究ではこれら 2 国が指導的地位にあることを示していました。ロシア人研究者では、古くからの友人、G. Soborev さん、M. Gokhberg さんなどの健在ぶりには感銘を受けました。今回も、新しい idea を掲げた講演をしていました。聴講者には諸国の研究者もかなり見られましたが、なんといってもこれらの sessions は満堂の盛会とは言えないのが実情だったと思われます。世界的な広汎な学問的関心をもっと高めることの必要性を痛感しました。

今回の総会で、インドの Harsh Gupta さんが次期 President に選出されました。私は忘れていましたが、Gupta さんには彼が 1966 年に日本に留学されたときに、私から地球熱学を教わったのだそうですが、現在ではインドの地球物理学界の最重鎮で、しかも地震予知の熱心な支持者です。「あなたにとっても、あなたの奥さん(マンジュウさん)、インド、そして世界の地球物理学にとって

も最高の喜びだ」と盃を傾けました。

筆者は最近はおっぱら地震短期予知研究に入れ込んでいますが、IUGG 総会などでは、沢山の昔の研究者仲間と再会するのも大きな喜びです。2003年に札幌で IUGG 総会を開いたときには、私は大会委員長の重責を負いましたが、その時、中国参加者の代表格だった Zhu Chuanzhen さんに声をかけられた時は、当時の苦勞を思い出して、本当に懐かしく思いました。また、次回の IGUU 開催地に決まったチェコ地球物理学界の立役者、V. Cermak さんも heat flow 研究の親しい戦友でした。プラハで会おうと力をこめて、手をにぎりましたが、もはや、この年では 2015 年の次回 IUGG に参加できる可能性は殆どありません。その意味でも、今回の参加を可能にくださった地震学会には深く感謝いたします。